

2008年7月号 目次

【トピックス】

遺伝子組換え食品の検査	1
平成19年度薬事検査について	3
医動物検査	4

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査事業 病原体調査 - 平成19年度のウイルス分離・検出状況のまとめ -	6
感染症発生動向調査委員会報告 6月	8
感染症発生動向調査における病原体検査 6月	12

【検査結果】

由来別病原菌検出状況 6月	13
---------------	----

【情報提供】

衛生研究所 WEB ページ情報(20年度6月分)	14
--------------------------	----

遺伝子組換え食品の検査

平成20年4から5月にかけて、食品専門監視班及び福祉保健センターが収去した計57検体について、遺伝子組換え食品の検査を実施しました。

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断され、承認されたものが国内に流通します。検査は、承認済みのものについては定量検査（食品中に遺伝子組換え品種がどのくらい含まれているかを調べる検査）を行います。一方、未承認のものについては定性検査（食品中に遺伝子組換え品種が含まれているかを調べる検査）を行います。今回は、承認済みのラウンドアップ・レディー・大豆、CaM組み込みトウモロコシ（Event176、Bt11、T25、Mon810）及びGA21トウモロコシ¹の定量検査、並びに未承認のBt10トウモロコシ及びBtコメの定性検査を実施しました。なお、トウモロコシ粉碎品については定量と定性の両方の検査を行いました。

1 定量検査

大豆加工品（豆腐）8検体及び大豆穀粒3検体についてラウンドアップ・レディー・大豆の定量検査を行いました。また、トウモロコシ粉碎品5検体についてCaM組み込みトウモロコシ及びGA21トウモロコシの定量検査を行いました。その結果、いずれも混入率は5%以下²であり、違反検体はありませんでした（表1、2）。

表1 ラウンドアップ・レディー・大豆の定量検査

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体数
豆腐	日本	8	0
大豆穀粒	アメリカ	2	0
	日本	1	0

表2 CaM組み込みトウモロコシ及びGA21トウモロコシの定量検査

品名	原産国	検体数	混入率5%を超える検体数
トウモロコシ粉碎品	日本	4	0
	アメリカ	1	0

¹ 遺伝子組換えトウモロコシ混入率は、安全性審査を経た5種類の遺伝子組換えトウモロコシ（Event176、Bt11、T25、Mon810、GA21）の各混入率を合計したものになります。そのうち4種類（Event176、Bt11、T25、Mon810）については共通してCaM配列が組み込まれているためスクリーニング検査で4種類の混入率合計値を推定することができます。GA21トウモロコシはCaM配列が組み込まれておらずスクリーニング検査で定量できないため系統特異的の定量を行います。スクリーニングの値とGA21の値の合計が5%を超えた場合には、あらためて5種類の系統特異的の定量を行う必要があります。

² 安全性審査を経た遺伝子組換え食品は、混入率が5%を超えると表示義務が生じ、「遺伝子組換え」である旨の表示をしなければなりません。一方、5%以下なら表示義務はなく、「遺伝子組換えではない」等の表示をすることもできます（ただし、書類等で確認ができること、意図的に遺伝子組換え食品を混入していないことが前提になります）。そのため、安全性審査を経た遺伝子組換え食品の検査では、混入率が5%を超えているかどうかを調べることになります。

2 定性検査

原材料表示にトウモロコシの記載がある食品12検体(スナック菓子など)についてBt10トウモロコシの定性検査を行いました。また、コメ加工品34検体(ビーフン、米粉など)についてBtコメの定性検査を行いました。その結果、いずれも不検出であり、違反検体はありませんでした(表3、4)。

表3 Bt10トウモロコシの定性検査

品名	原産国	検体数	検出数
スナック菓子	日本	6	0
トウモロコシ粉砕品 ³	日本	4	0
	アメリカ	1	0
トルティーヤ	オーストラリア	1	0

³ トウモロコシ粉砕品5検体はCaM組み込みトウモロコシ及びGA21トウモロコシの定量検査と同一検体。

表4 Btコメの定性検査

品名	原産国	検体数	検出数
ビーフン	台湾	6	0
	タイ	5	0
	ベトナム	3	0
米粉	日本	7	0
	台湾	1	0
せんべい	日本	5	0
ライスペーパー	ベトナム	3	0
	日本	1	0
餅	日本	3	0

【 食品添加物担当 】

平成19年度薬事検査について

平成19年度は、健康福祉局医療安全課等の依頼により、いわゆる健康食品、健康被害事例の原因究明等について検査を実施しました。

1 いわゆる健康食品等の検査

本年度は、医療安全課の試買により「ダイエット」、「痩身」等を標榜し、肝機能障害等が問題となる「いわゆる健康食品」25検体について、センナ、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、エフェドリン類及び甲状腺ホルモンの検査を行いました。その結果、いずれの成分も検出されませんでした。

また、強壮効果を標榜する「いわゆる健康食品」5検体について、シルデナフィル、タダラフィル、バルデナフィル、ホンデナフィル、キサントアントラフィル、メチルテストステロン及びヨヒンビンの検査を行いました。その結果、いずれの成分も検出されませんでした。

2 健康被害に係わる検査

医療安全課の依頼により、医療機関からの通報で痩身効果を標榜する「いわゆる健康食品」での健康被害事例の原因究明検査を2件12検体行いました。その結果、エステサロン販売サプリメントの事例は、センナ、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、シブトラミン、エフェドリン類及び甲状腺ホルモンを検査しましたが検出されませんでした。ホスピタルダイエットを服用した甲状腺機能亢進症状事例の6検体から、甲状腺ホルモン2検体、フロセミド、ピサコジル、フルオキセチン及びシブトラミンがそれぞれ1検体から検出されました。

年月	件名	症状	検出された医薬品成分
19年6月	エステサロン販売 サプリメント	下痢、興奮、倦怠感	検査対象成分は不検出
19年10月	ホスピタルダイエット	微熱、動悸、体重減少、 甲状腺機能亢進症	甲状腺ホルモン、フロセミド、ピサコジル、 フルオキセチン、シブトラミン

3 ホームページの改訂

衛生研究所のホームページのリニューアルにあわせ、薬事情報のホームページ (http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/yakuzi_inf) を全面改訂しました。

ホームページの「要注意健康食品シリーズ」に、19年度検査対象としました成分のうち、センナ、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、エフェドリン類、甲状腺ホルモン、シルデナフィル及びタダラフィルについて掲載してありますので参照して下さい。

【 薬事担当 】

医動物検査

医動物室における平成20年4～6月の検査件数を表に示しました。

【行政検査:福祉保健センター、市場食品衛生検査所など行政からの依頼】

食品中異物検査が5件(パンに混入したチビアメバチ亜科の一種、乳飲料に混入したノミバエの一種、スープに混入したヤマアリの雄有翅虫、スープに混入したコナガの幼虫、じゃこトーストに混入した等脚目の一種)、種類同定検査が6件(ヒメイエバエ、ニホンミツバチ、ナミハナアブ亜科の幼虫、チャタテムシの一種、カイガラムシの一齢幼虫、ササラダニの一種)でした。

ウエストナイル熱媒介蚊調査のために、市内公園や港湾地区などで週に1回ライトトラップを用いて採集された蚊を分類同定しました。6月中に2回(1回10定点)調査を行いました。期間中に採集された蚊は、5属7種、186個体(雄を含む)でした。本調査は10月下旬まで継続実施します。

【依頼検査:市民、事業者からの有料依頼】

種類同定検査が3件(マルトビムシ科の一種、等脚目の一種、クモ目の一種)でした。

ゴキブリに対する殺虫剤効力試験を実験室内で行いました。なお、現場における試験を継続中です。

【その他:感染症媒介昆虫等の市内における生息状況を把握するために行う調査や市民からの問い合わせ等】

中区、磯子区、南区(2定点)でライトトラップを用い、週に1回飛翔昆虫調査を行いました。4～6月中に54定点の調査を行いました。

また、中区の5飲食店、57定点で粘着式トラップによるチャバネゴキブリの生息状況調査を実施しました。4～6月中にのべ670ヶ所の調査を行いました。

感染症媒介昆虫調査の一環として、中区(1回:11ヶ所)、磯子区(3回:62ヶ所)及び保土ヶ谷区(2回:200ヶ所)において雨水枡における蚊幼虫調査を行いました。

検査試験項目	平成20年			平成20年	
	4月	5月	6月	4～6月	
行政検査	種類同定検査	0	2	4	6 件
	食品中異物検査	1	1	3	5 件
	ウエストナイル熱蚊検査				
	採集地点数			20	20 定点
個体数			186	186 個体	
依頼検査	種類同定検査		2	1	3 件
	食品中異物検査				0 件
	発生状況調査(ダニ類)				
	調査回数				0 件
	個体数				0 個体
殺虫剤効力試験		4			4 件
その他	ゴキブリ調査	271	200	199	670 カ所
	飛翔昆虫調査	19	15	20	54 定点
	その他の調査等	50	23	200	273 件
	問い合わせへの回答	14	19	21	54 回

検査試験項目等 解説

種類同定検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった昆虫・ダニ類の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、その発生時期、発生場所、害の有無などに基づいて駆除の必要性、駆除方法、予防法などが明らかになります。

食品中異物検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった食品に混入した昆虫の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、混入経路を推定する一助となります。

ウエストナイル熱媒介蚊調査

健康福祉局の「ウエストナイル熱対策事業(18区)」におけるウエストナイルウイルスの調査を行っています。種ごとのウイルス保有状況を調べるため、市内公園や港湾地区などで採集された蚊を分類同定します。

ダニ類等発生状況調査

福祉保健センター、市民、事業者などからのかゆみや虫刺されの相談に基づいて、必要に応じて、住宅内でのダニ検査を行います。ダニ発生の有無を調べ、発生している場合には人を刺すダニであるかなどの検査を行います。

殺虫剤効力試験

新しく開発された防疫用殺虫剤の効力試験を、室内(基礎)および野外(実地)で行います。

ゴキブリ調査

実際に営業している飲食店におけるゴキブリの生態を把握するため、また殺虫剤の実地効力試験の予備調査として、ゴキブリ生息状況調査を行っています。

飛翔昆虫調査

ライトトラップを用い、時期ごとに大量発生している昆虫類等の発生状況や感染症媒介昆虫である蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫の発生状況を調査しています。

その他の調査等

20年度は、雨水枡内での蚊の生息状況観察と幼虫に対する薬剤効果試験を行っています。

問い合わせ

市民の方などから相談のあった、昆虫・ダニ一般、昆虫媒介性疾病、殺虫剤などに関する不安、疑問に回答、助言、指導をします。



いよいよ夏本番。「そろそろ出番？」

写真:クログキブリ

【 医動物担当 】

感染症発生動向調査事業 病原体調査

平成19年度のウイルス分離・検出状況のまとめ

感染症発生動向調査事業では、感染症の発生状況を把握するために定点医療機関を設定し、定められた疾患の流行の動向を監視し、さらに病原体に関する情報の収集、分析、公開等をおこなっています。感染症の定点医療機関には、臨床診断に基づいて各疾患の患者発生数を把握するための患者定点医療機関と、患者さんから検体を採取して、病原体の分離・同定をするための病原体定点医療機関とがあります。

横浜市には、17か所の病原体定点(小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所)が設置され、そこで採取された咽頭ぬぐい液、髄液、便などの検体について、当所で分離培養、遺伝子検査等の病原体調査を実施しています。平成19年度のウイルス分離・検出状況をまとめましたので報告します。

アデノウイルス(Adenovirus)

アデノウイルスは、咽頭炎、扁桃炎、肺炎などの急性呼吸器疾患、咽頭結膜熱や流行性角結膜炎および乳幼児下痢症や出血性膀胱炎など多彩な感染症を引き起こす病原体です。19年度は、一年を通じて27株分離検出されました。小児科定点では主に気道炎患者由来の検体から、全国的にも流行しました2型が14株分離されました。重複感染として、夏季にアデノウイルス2型が分離された気道炎患者1人と、口内炎患者2人からは、エンテロウイルス(それぞれコクサッキーウイルスA2型、10型、16型)も分離検出されました。同様に冬季にはアデノウイルス(2型と3型)が分離検出され気道炎患者2人からは、インフルエンザAH1N1型が確認されました。このほか、眼科定点の流行性角結膜炎患者由来の4検体(結膜ぬぐい液)からも型未同定のアデノウイルスが分離されました。

インフルエンザウイルス(Influenza virus)

高熱、筋肉痛などを伴う風邪の症状を引き起こす病原体で、毎年冬季に流行を引き起こします。19年度は、2006/2007シーズンの流行が5月まで続き、それぞれAH1N1型7株、AH3N2型13株、B型6株が分離されました。また、2007/2008シーズンは、10月から3月にかけて主に上気道炎の患者から、AH1N1型117株とAH3N2型9株、B型5株分離されました(詳細は8月号で報告します)。

RSウイルス(Respiratory syncytial virus)

冬季の小児のかぜの主要な病因ウイルスの一つで、重症化すると細気管支炎や肺炎等の下気道炎の引き起こす病原体です。またインフルエンザと同様に、高齢者においても、しばしば重症の下気道疾患を起こす原因として重要になりつつあり、特に、長期療養施設内での集団発生が問題視されています。19年度は、主に小児科定点の気道炎患者由来の検体から一年を通じて58株検出され、夏季にも散発例がみられました。インフルエンザ流行期にはインフルエンザウイルスとの重複感染が19例ありました。

麻疹ウイルス(Measles virus)

高熱と耳介後部から下方に広がる赤い発疹を特徴とする症状を引き起こす病原体です。20年には、10歳前後の小児を中心に、麻疹と診断された患者の8検体と発疹患者の1検体から、全国的に流行していますD5型が9株検出されました。また、1歳前後も患者の検体からはワクチン型であるA型が3株検出されました。

エンテロウイルス (Poliovirus・Coxsackievirus A・Coxsackievirus B・Echovirus・Enterovirus)

小児の夏かぜの原因となる病原体で、特徴的な疾患には、ヘルパンギーナ・手足口病があり、重症化すると、無菌性髄膜炎等を引き起こします。19年度は、夏季を中心に15種37株が分離検出されました。分離されたポリオウイルス2株は、経口ポリオワクチン由来株でした。手足口病患者由来の4検体からは、コクサッキーウイルス(Cox)A16型3株、エンテロウイルス71型1株、ヘルパンギーナ患者由来の8検体からは、CoxA5型4株、CoxA10型3株、CoxB3型1株が分離検出されました。また、無菌性髄膜炎患者由来の5検体からは、CoxB5型4株、エコーウイルス30型1株が分離検出されました。

月別ウイルス分離・検出状況(平成19年度)

検査月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	H19年度 合計	H18年度 合計
検体数		53	44	46	50	34	35	32	51	65	61	61	55	587	597
分離検出数		37	22	18	20	11	11	21	29	41	41	45	41	339	311
内訳															
Adenovirus	1型			2		1								3	4
	2型		3		6		2		1	1		1		14	5
	3型									1	1			2	10
	8型													0	1
	37型													0	2
	型未同定		2	1	1		2					1		1	8
Influenza virus	AH1N1型	4	3					3	17	26	32	30	9	124	12
	AH3N2型	10	3									1	3	5	49
	B型	6										3	2	11	53
Parainfluenza virus	2型													0	5
	3型			2										2	6
RS virus		6	3	4	2	2	2	7	4	10	5	6	7	58	54
Human metapneumo virus		8	7	2									8	24	13
Measles virus	A型		1	2										3	0
	D5型	1				1			1			2	7	12	0
Enterovirus															
Poliovirus	1型													0	2
	2型								1					1	1
	3型								1					1	0
Coxsackievirus A	2型				2	1	2	1						1	4
	4型													0	26
	5型				3	2								5	4
	9型													0	5
	10型				2	3	2	1						8	1
Coxsackievirus B	16型			2	1									3	10
	3型							1						1	0
	4型						1							1	0
Echovirus	5型							1	3	1				5	1
	11型								1					1	0
	18型					1								1	1
Enterovirus	25型							1						1	1
	30型									1				1	1
	71型				1									1	4
Parechovirus	1型				1									1	0
	3型							1						1	4
Rhinovirus				1					1					2	0
Herpes simplex virus	1型							1			2			3	3
Cytomegalo virus		1												1	0
Human herpes virus	6型	1											1	2	5
未同定				1	2		1	1	1	1			1	8	26

【 ウイルス担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 6月

今月のトピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、過去6年間で最も高い水準で、注意が必要
 麻疹報告数は5月に引き続き減少傾向
 緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施中
 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症が増加傾向
 百日咳が全国的に増加していますので、注意が必要

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年5月19日から平成20年6月22日まで(平成20年第21週から第25週まで。ただし、性感染症については平成20年5月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成20年 週 - 月日対照表

第21週	5月19～25日
第22週	5月26～6月1日
第23週	6月2～8日
第24週	6月9～15日
第25週	6月16～22日

全数把握の対象

< コレラ >

今年1例目の報告がありました。経口感染が疑われ、推定感染地域はフィリピンでした。

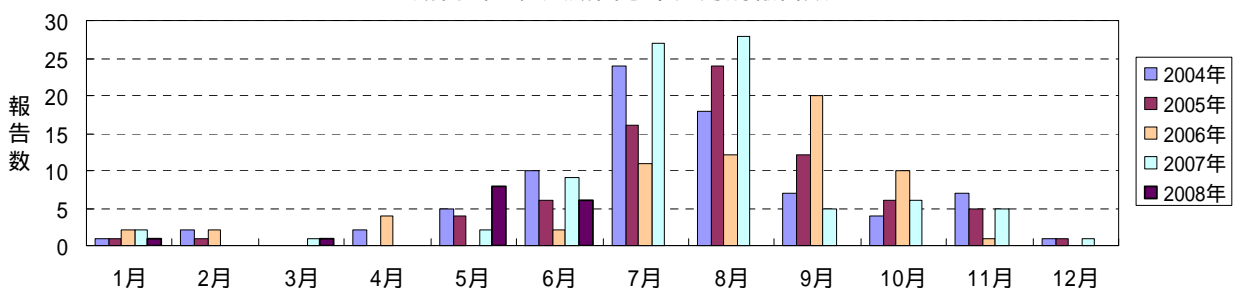
< 腸管出血性大腸菌感染症 >

6月の報告数は、26日現在で6例です。修学旅行生の集団感染と見られる事例がありました。年齢の内訳は、10歳未満が1例、10代が2例、40代が1例、50代が1例、60代以上が1例でした。毎年、夏に報告が多くなりますので、今後に注意が必要です。例年、生肉(生レバー等)や生焼けの肉の喫食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> もあわせてご覧ください。

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



< 麻しん >

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、第25週(6/15～22)までの報告数は1387例で、全国の報告数9666の14.3%を占めています。年齢別では過半数が10代です。また、約半数が予防接種未接種でした。

6月1日～22日までの報告数は、43例と、5月に引き続き減少していますが、2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

(日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底。

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施。

定点把握の対象

< 咽頭結膜熱 >

夏季に流行する疾患で、例年6月頃から増加が見られます。横浜市では、第25週は定点あたり0.78と、増加傾向が見られます。行政区別では、港北区(3.14)、磯子区(2.25)、港南区(1.67)が高くなっています。川崎市は1.36と、横浜市より高い値です。全国では、0.85でした。今後の動向には注意が必要です。

啓発用チラシ「咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう!」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/intouketumaku2008.pdf> も合わせてご覧ください。

平成 20 年 週 - 月日対照表

第 21 週	5 月 19 ~ 25 日
第 22 週	5 月 26 ~ 6 月 1 日
第 23 週	6 月 2 ~ 8 日
第 24 週	6 月 9 ~ 15 日
第 25 週	6 月 16 ~ 22 日

< A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >

第2週以降増加傾向が続き、第23週は定点あたり3.67と、過去6年間で最も高い値となりました。第25週も3.28と高い値が続いています。行政区別では、港北区(13.43)、瀬谷区(8.50)、緑区(8.00)に多く見られました。川崎市は3.88と横浜市より高く、神奈川県(横浜、川崎を除く)は3.11でした。全国は2.62でした。今後も注意が必要です。

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/gas/2008/gas0626.pdf> も合わせてご覧ください。

< 手足口病 >

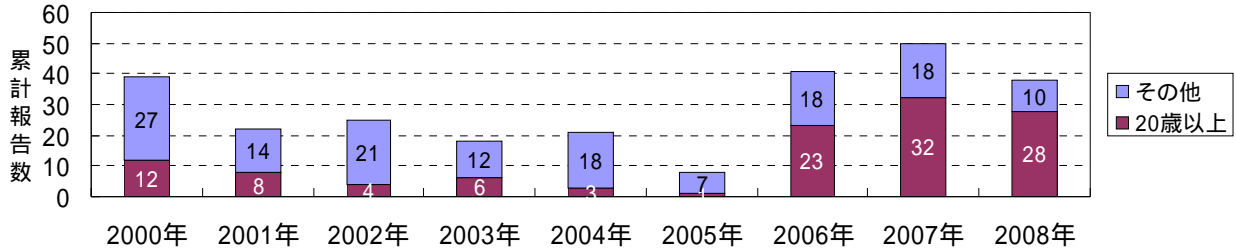
第25週は定点あたり0.66と、やや増加の兆しが見られます。例年夏にかけて増加してくることから、今後の動向に注意が必要です。川崎市は1.21、全国は1.67と、横浜市より高い値です。

< 百日咳 >

第21～25週の報告は21人で、そのうち15人が20歳以上でした。全国的には例年より高い水準が続いており、成人の報告例が多くなっています。成人の診断は困難な場合があります。注意が必要です。

百日咳の診断等については「国立感染症研究所感染症情報センターIDWR感染症の話 百日咳」
http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_36.html もご参考にしてください。

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第25週)



< ヘルパンギーナ >

第25週は定点あたり1.30と、増加の兆しが見られます。川崎市は2.06、全国は1.57と、横浜市より高い値でした。例年、6月末～7月にピークを迎えるため、これからの季節は注意が必要です。

< 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

5月は、4月に比べて、横ばい傾向です。15～19歳の若年層については、男性は性器ヘルペスウイルス感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、尖圭コンジローマで1例見られました。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点：8か所、インフルエンザ（内科）定点：5か所、眼科定点：1か所、基幹（病院）定点：3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

< ウイルス検査 >

2008年6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点は35件（鼻咽頭ぬぐい液34件、直腸ぬぐい液1件）、眼科定点は1件（眼脂）、基幹定点は11件（鼻咽頭ぬぐい液8件、髄液9件、便2件、血清1件）でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎24人、口内炎5人、胃腸炎3人、結膜熱2人、突発性発疹1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は脳症疑い3人、意識障害3人、可逆性脳梁膨大部病変1人、手足口病1人、歩行障害1人、麻しん脳炎1人、インフルエンザ1人（バンコク渡航者）でした。

7月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス2型が、1人からアデノウイルス3型が、1人から単純ヘルペスウイルス1型が分離されています。また、基幹定点のインフルエンザ患者からはAH3型インフルエンザウイルスが分離されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者1人からコクサッキーAウイルス6型が、1人からコクサッキーAウイルス5型が、口内炎患者1人からコクサッキーAウイルス6型が、1人からコクサッキーAウイルス2型が、突発性発疹患者からヘルペスウイルス6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

< 細菌検査 >

6月の感染性胃腸炎関係の受付は4菌株で起因菌は検出されませんでした。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は5件でA群溶血性レンサ球菌が4件から検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課（細菌担当・ウイルス担当） 】

感染症発生動向調査における病原体検査 6月

感染性胃腸炎

2008年6月

検査年月	6月		2008年1～6月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数		4		45

菌種名

サルモネラ				
腸管病原性大腸菌				
毒素原性大腸菌				1
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出		4		44

呼吸器感染症等

2008年6月

検査年月	6月		2008年1～6月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	5		34	1

菌種名

A群溶血性レンサ球菌	T1		1	
	T3	3	5	
	T4		6	
	T6			
	T12		7	
	T13		1	
	T25	1	5	
	T28		2	
	T型別不能			
B群溶血性レンサ球菌				
G群溶血性レンサ球菌				
インフルエンザ菌				
パラインフルエンザ菌				
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌				1
インフルエンザ菌				
不検出		1	7	0

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【細菌担当】

由来別病原菌検出状況 6月

2008年6月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
	6月	2008年1-6月	6月	2008年1-6月	6月	2008年1-6月
コレラ O - 1	1	1				
O - 1以外				4		
赤痢菌 A						
B	1	1				
C	1	1				
D	1	4				
その他						
チフス菌		1				
パラチフスA菌		4				
その他のサルモネラ						
O4群		1				
O7群		2				
O8群						
O9群						
O3, 10群						
その他						
腸管病原性大腸菌						
毒素原性大腸菌		1				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	6	17				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ビブリオ						
黄色ブドウ球菌	1*	5				
カンピロバクター		18				
ウェルシュ菌		6			1	
A群溶血性レンサ球菌	4	27				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ菌		1				
その他		1				
取り扱い件数	121				111	

* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

【細菌担当】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度5月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度6月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2008年5月のアクセス件数、アクセス順位及び2008年6月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2008年5月)

2008年5月の総アクセス数は、149,431件でした。主な内訳は、感染症61.8%、食品衛生16.4%、保健情報6.2%、検査情報月報3.3%、生活環境衛生2.0%、薬事1.3%でした。

(2) アクセス順位 (2008年5月)

5月のアクセス順位(表1)は、「百日咳について」が第1位でした。

感染症情報センターによると、2008年第25週(6月16日～6月22日)における百日咳の定点当たりの報告数は、全国では、3週連続で減少しましたが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い状態で、推移しています。

横浜市では、成人の報告例が71%を占め、多くなっています。

2位が「マイコプラズマ肺炎について」、「A群溶血性連鎖球菌感染症について」が第8位に入りました。

また、「麻疹(はしか)について」、「横浜市における麻しん患者届出状況 (2008年)」と麻しん関連情報が2項目10位内に入りました。

表1 2008年5月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	百日咳について	26,723
2	マイコプラズマ肺炎について	6,534
3	ちょっと専門的なデータシート	2,782
4	感染症発生状況	2,258
5	麻疹(はしか)について	2,198
6	電子パンフレット(レジオネラ症を防止するために)	1,807
7	英字略語集(ABC順)	1,643
8	A群溶血性連鎖球菌感染症について	1,364
9	食品添加物における用語説明	1,309
10	横浜市における麻しん患者届出状況 (2008年)	1,300

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2008年6月)

2008年6月にホームページのお問い合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、2件でした(表2)。

表2 2008年6月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
ポリリジンについて	1	衛生研究所
骨盤炎について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2008年6月)

2008年6月に追加・更新した主な記事は、5件でした(表3)。

表3 2008年6月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
6月9日	感染症に気をつけよう(6月号)	追加
6月20日	咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう!	追加
6月25日	百日咳について	更新
6月27日	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報	追加
6月30日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】